


SHEETED COSMETIC COMPOSITION**Publication number:** JP9216809 (A)**Publication date:** 1997-08-19**Inventor(s):** KAMIYA TETSURO; YOROZU HIDENORI**Applicant(s):** KAO CORP**Classification:**

- international: **A61K8/72; A61K8/00; A61K8/02; A61Q19/00; A61K8/72; A61K8/00; A61K8/02; A61Q19/00;** (IPC1-7): A61K7/00; A61K7/48

- European:**Application number:** JP19960024013 19960209**Priority number(s):** JP19960024013 19960209**Also published as:** JP3595057 (B2)**Abstract of JP 9216809 (A)**

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a sheeted cosmetic composition having easy handleability and good usability, applicable to the skin and giving the attached area excellent moisture-retention effect, ultraviolet-prevention effect, slimming effect, tightening effect and smoothing effect. **SOLUTION:** This composition is produced by using a water-soluble nonwoven fabric or woven fabric (especially preferably polyvinyl alcohol fabric). The composition is preferably compounded with humectant, skin-beautifying agent, ultraviolet absorber, slimming agent, blood flow accelerating agent, anti-inflammatory agent, astringent, agent for preventing and improving the formation of wrinkles, chilling agent, thermal agent, etc. A cosmetic composition suitable as a shampooing agent, face-wash, etc., can be produced by compounding the composition with a surfactant as a cleaning agent.; The sheeted cosmetic composition has high adhesivity to the skin, is easy-to-peel and washable from the skin after attaching and gives excellent feeling free from stickiness to the skin. The composition is preferably stored in a package using a gas-barrier material to prevent the deterioration of quality by humidity.

Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-216809

(43)公開日 平成9年(1997)8月19日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/00		A 6 1 K	7/00
				J
				L
				U
	7/48		7/48	

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全 9 頁)

(21)出願番号	特願平8-24013	(71)出願人	000000918 花王株式会社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
(22)出願日	平成8年(1996)2月9日	(72)発明者	神谷 哲朗 栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会 社研究所内
		(72)発明者	萬 秀憲 栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会 社研究所内
		(74)代理人	弁理士 有賀 三幸 (外4名)

(54)【発明の名称】 シート状化粧料組成物

(57)【要約】

【解決手段】 水溶性の不織布又は織布からなるシート状化粧料組成物。

【効果】 単に濡れた皮膚に貼りつけるだけでしっかりと密着し、その後剥離することもまた水で簡単に洗い流すこともでき、使用感が良好である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 水溶性の不織布又は織布からなることを特徴とするシート状化粧料組成物。

【請求項2】 水溶性の不織布又は織布が、ポリビニルアルコールの不織布又は織布である請求項1記載のシート状化粧料組成物。

【請求項3】 更に、保湿剤、美白剤、紫外線防止剤、痩身剤、血行促進剤、抗炎症剤、収斂剤、しわ形成予防改善剤、冷感剤及び温感剤から選ばれる1種又は2種以上を含有するものである請求項1又は2記載のシート状化粧料組成物。

【請求項4】 更に、界面活性剤を含有するものである請求項1～3のいずれか1項記載のシート状化粧料組成物。

【請求項5】 めれた皮膚に貼付して、洗い流して使用するものである請求項1～3のいずれか1項記載のシート状化粧料組成物。

【請求項6】 めれた皮膚に貼付して、乾燥後、剥離して使用するものである請求項1～3のいずれか1項記載のシート状化粧料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はシート状化粧料組成物に関し、更に詳しくは取り扱いが簡便で使用性が良好で、かつ皮膚に貼付して使用することができ、その場合には、当該貼付部位の保湿効果、美白効果、紫外線防止効果、痩身効果、ひきしめ効果、しわ取り効果に優れたシート状化粧料組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】皮膚化粧料としては従来から化粧水、クリーム、乳液、バック、ファンデーションなど多種多様の剤型の製品が上市されている。

【0003】化粧料の形態としては、液剤や半固形剤がほとんどであるが、近年、バック型の化粧料もいくつか提案されている。例えばポリビニルアルコールあるいはポリビニルアルコール及び／又は、ポリビニルピロリドンなどからなるバック剤があり、例えば所定の形状に成形されたものを皮膚に貼って使用したり、半固形状のものをチューブから練り出して顔などに塗り、乾かした後、剥離しながら角質層の汚れなどを除去する製剤がある。

【0004】また、バック剤を皮膚に塗布した後、バック剤ごと洗い流しながら角質層の汚れなどを除去して、皮膚を健やかに維持させる製剤なども上市されている。

【0005】これらの化粧料の製剤の内、バック剤は皮膚の古い角質層を剥離し、皮膚を活性化する効果だけでなく、バック剤中に種々の薬効成分を配合することにより、様々な効果を期待されるものである。

【0006】また、バック剤の効果としては、肌を滑らかにしたり、皮膚に潤いを与えたり、皮膚の保湿効果を

高めたり、美白効果や紫外線を防御したり、肌をひきしめたり、痩身効果などが期待されている。

【0007】これらのバック剤の使用方法としては、半固形製剤をチューブから練り出して手などで皮膚に直接塗布する方法が一般的であるが、塗布する手間がかかり、また、バック剤が手指に付着するなどの問題から、剥離シートを設けてシート状に成形し、粘着面を皮膚に貼付して使用する形態のバック剤が市販されてきている。

10 【0008】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、これら従来の貼付型バック剤は、非水溶性の製剤でできており、洗い流すことはできなかった。

【0009】また、従来のバック剤においては、これを顔などに塗ったり、貼ったりするときに皮膚が濡れていると、この水分によって皮膚への接着が困難になるという問題があった。

【0010】ところで、これらの問題を解決する一手段として水溶性フィルムを用いることが考えられるが、水溶性のフィルムを皮膚に貼る場合には、如何に皮膚に対する接着性を出すかが課題となるが、その場合にはフィルム自体に粘着性を付与させるか、予め皮膚を濡らしておいて水溶性のフィルムを貼りつけるかの2つの方法が考えられる。フィルム自体に粘着性を付与させる方法としては適当な可塑剤を入れたりして造ることができるが、粘着性のフィルムを手にとって貼りつけることは実用上非常に困難である。予め皮膚を濡らしておいて水溶性のフィルムを貼りつける方法では、皮膚に貼ったフィルムが皮膚上で必ずしも密着しない為、すぐに剥がれ落ちたり、皮膚表面を移動したりして使用感が悪く、実用性の低いものであった。

【0011】従って、本発明の目的は、特に濡れた皮膚に貼付して用いることができ、かつ貼り続けた後に剥離することもまた、水で簡単に洗い流すこともできる極めて使用感に優れたシート状化粧料組成物を提供することにある。

【0012】

【課題を解決するための手段】そこで、本発明者らは、上記課題を解決すべく鋭意検討してきたところ、化粧料の形態を水溶性の不織布又は織布とすることにより、単に濡れた皮膚に貼りつけるだけでしっかりと密着し、その後剥離することもまた、洗い流すこともできることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0013】すなわち、本発明は、水溶性の不織布又は織布からなることを特徴とするシート状化粧料組成物を提供するものである。

【0014】

【発明の実施の形態】本発明のシート状化粧料組成物は皮膚に貼付できるが、ここで貼付性とは、本発明のシート状化粧料組成物を人の顔面の頬部分を濡らした後に貼

付し、貼付面を真下にして静かに放置した時、落下しない条件が好ましい。

【0015】本発明化粧料に用いられる水溶性の不織布又は織布は、基本的に水溶性高分子繊維で構成される。

【0016】本発明において、水溶性高分子繊維としては、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ブルラン、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース等の繊維が好ましく、特にポリビニルアルコール繊維が好ましい。また、ポリビニルアルコールに酢酸ビニルとオレフィンやカルボン酸ビニル等のビニルモノマーとの共重合体変性物を混合したり、ポリビニルアルコールに水溶性又は水分散性のブロック共重合体を混合したり、イタコン酸、マレイン酸等の化合物を共重合させた変性ポリビニルアルコール誘導体等が挙げられる。また、ゼラチンや水溶性の蛋白質やデキストリンやブルラン等の多糖類を用いた変性ポリビニルアルコールを用いても良いし、必要であればポリビニルアルコールを適当な方法で変性させ、ゼラチンや水溶性の蛋白質やデキストリンやブルラン等の多糖類等との混合性を高めて用いてもよい。特に、平均重合度が100～3000のポリビニルアルコールよりなるポリビニルアルコール繊維が好ましい。

【0017】水溶性高分子繊維は50～0℃の水に溶解又は混和するものが好ましく、特に10～0℃の水に溶解又は混和するものが好ましい。ここで溶解又は混和とは、繊維0.5gが50℃の水1リットルに10分以内に溶解又は混和し、更に8.6号のふるい(局方:2000μm)に通して残留物が無い状態をいう。また、水溶性高分子繊維の直径は、5～200μmのものが好ましく、特に5～50μmのものが好ましい。

【0018】水溶性高分子繊維の不織布又は織布は、低温での水溶性、溶解性及び水分散性に優れ、また高湿度においても収縮率が小さく、縮まないものが好ましい。

【0019】このような不織布としては、特開平5-321105号公報、特開平7-42019号公報、特開平3-86530号公報、特開平3-279410号公報、特開平3-199408号公報、特開平2-112406号公報に示された水溶性ポリビニルアルコール系繊維からなる不織布が挙げられる。

【0020】また、原料に用いているポリマーの性質や、不織布又は織布の加工処理条件を変えることにより、浴湯中での溶解時間を任意にコントロールすることができる。単位面積あたりの不織布等の重量は、繊維により適宜決定すればよいが、ポリビニルアルコール繊維の場合は、2～200g/m²が好ましく、特に25～100g/m²が好ましい。また不織布の厚さは10～3000μmが好ましく、特に25～400μmが好ましい。一方、織布の厚さは20～2000μmが好ましく、特に50～500μmが好ましい。

【0021】不織布又は織布は、全面又は部分的、例え

ば点状にヒートプレスして通気性を抑えたり、エンボス加工により風合いや強度を高めることもできる。またこのようにして得られた不織布又は織布は必要に応じてインク又は顔料を用いて様々な色柄を印刷してもよい。

【0022】本発明のシート状化粧料組成物は、不織布又は貼付側の表面に通常化粧料で処方される汎用原料を配合又は塗布又は蒸着することができる。

【0023】このうち、本発明のシート状化粧料組成物に配合することによって効果を明確に体感し得る成分としては、保湿剤、美白剤、紫外線防止剤、痩身剤、血行促進剤、抗炎症剤、収斂剤、しわ形成予防・改善剤、冷感剤、温感剤などが挙げられる。

【0024】保湿剤としては、グリセリン、特開平2-115117号公報に記載されているようなセラミド又はその類似構造物質、コレステリルエステル、ソルビトール、キシリトール、グリセリン、マルチトール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、1,4-ブチレングリコール、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、乳酸、乳酸ナトリウム、ポリオキシプロピレン脂肪酸エステル、ポリエチレングリコール等が挙げられる。これらは1種を単独で又は2種以上を組合せて用いることができる本発明においては、これらのうちグリセリン、セラミド誘導体、コレステリルエステルが特に好ましい。

【0025】これらの保湿剤の本発明化粧料への配合量は0.01～50重量%(以下単に%で示す)が好ましく、0.5～20%が特に好ましい。

【0026】美白剤としては、カミツレ、アルブチン、コウジ酸、ビタミンC及びビタミンC誘導体、アラントイン、ビタミンE誘導体、グリチルリチン、アスコルビン酸誘導体、パンテチン酸誘導体、プラセンタエキス等が挙げられる。これらは1種を単独で又は2種以上を組合せて用いることができる。本発明においては、これらのうちカミツレ、アルブチン、コウジ酸が特に好ましい。

【0027】これらの美白剤の本発明化粧料への配合量は0.01～20%が好ましく、0.5～5%が特に好ましい。

【0028】紫外線防止剤には紫外線吸収剤と紫外線防御剤とがあり、紫外線吸収剤としては、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、ヒドロキシメトキシベンゾフェノンスルホン酸ナトリウム、ジヒドロキシメトキシベンゾフェノン、ジヒドロキシメトキシベンゾフェノンスルホン酸ナトリウム、テトラヒドロキシベンゾフェノン等のベンゾフェノン系化合物;パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラジメチルアミノ安息香酸アミル、パラジメチルアミノ安息香酸オクチル等のパラアミノ安息香酸系化合物;パラメトキシケイ皮酸イソプロピ

ル、パラメトキシケイ皮酸エチル、メトキシケイ皮酸オクチル、4-メトキシケイ皮酸-2-エトキシエチル、パラメトキシケイ皮酸カリウム、パラメトキシケイ皮酸ナトリウム等のメトキシケイ皮酸系化合物；サリチル酸オクチル、サリチル酸フェニル、サリチル酸ホモメンチル、サリチル酸エチレングリコール、サリチル酸ジブロピレングリコール、サリチル酸ミリスチル、サリチル酸メチル等のサリチル酸系化合物；ウロカニン酸、ウロカニン酸エチル、アントラニル酸メチルなどが挙げられる。これらは1種を単独で又は2種以上を組合せて用いることができる。本発明においては、これらのうちパラアミノ安息香酸エステル類、メトキシケイ皮酸エステル類、オキシベンゾンが特に好ましい。

【0029】また、紫外線防御剤としては、酸化チタン、酸化ジルコニウム、酸化鉄などが挙げられる。これらは、その紫外線防御能を高めるために微粒子化、シリコン、ジルコニア・アルミナ等による表面処理や複合化処理を施したものをを用いることが好ましい。

【0030】これらの紫外線防止剤の本発明化粧料への配合量は0.01～20%が好ましく、0.1～5%が特に好ましい。

【0031】痩身剤としては、アミノフィリン、テオフィリン、カフェイン等のキサンタン誘導体；イソプロテレノール、ドブタミン、サルブタモール及びこれらの塩等のβアドレナリン作用興奮薬；ヨヒンビン、フェントラミン、エルゴタミン及びこれらの塩等のα₂アドレナリン作用抑制薬；アムリノン、ミルリノン及びこれらの塩等のピピリジン誘導体；コショウ、アレチアザミ、ノアザミなどが挙げられる。これらは1種を単独で又は2種以上を組合せて用いることができる。本発明においては、これらのうちアミノフィリン、イソプロテレノール、アレチアザミ、ノアザミが特に好ましい。

【0032】これらの痩身剤の本発明化粧料への配合量は0.01～20%が好ましく、0.1～5%が特に好ましい。

【0033】血行促進剤としては、シャクヤク、トウキ、センキュウ、チョウジ、センブリ、ソウジュツ、チンピ、ユーカリ、ローズマリー、カラシナ、トウガラシ、カッコン、バックジュツ、カノコソウ、ケイガイ、コウボク、トウヒ、ニンジン、ケイヒ、ハッカ、サンシシ、ショウブ、ガイヨウ、オウレン、オウバク、イチョウ等の生薬及びその抽出エキス；ニコチン酸ベンジル、ニコチン酸トコフェロール、ニコチン酸メチル、トコフェロール、3-オクチルフタリド等が挙げられる。これらは1種を単独で又は2種以上を組合せて用いることができる。本発明においては、これらのうちイチョウ、ユーカリ、3-オクチルフタリドが特に好ましい。

【0034】これらの血行促進剤の本発明化粧料への配合量は0.0001～20%が好ましく、0.1～5%が特に好ましい。

【0035】抗炎症剤としては、サリチル酸メチル、サリチル酸グリコール、インドメタシン、イブプロフェン、アラントイン、塩化リゾチーム、グアイアズレン、γ-オリザノール、酢酸トコフェロール、グリチルリチン酸、グリチルリチン酸ジカリウム、グリチルレチン酸及びその塩が挙げられる。これらは1種を単独で又は2種以上を組合せて用いることができる。本発明においては、これらのうちγ-オリザノール、グリチルリチン酸ジカリウムが特に好ましい。

【0036】これらの抗炎症剤の本発明化粧料への配合量は、0.001～5%が好ましく、0.1～2%が特に好ましい。

【0037】収斂剤としては、ミョウバン、酸化亜鉛、タンニン酸、水酸化アルミニウム、塩化ナトリウム、塩化マグネシウム等が挙げられる。これらは1種を単独で又は2種以上を組合せて用いることができる。本発明においては、これらのうちミョウバン、タンニン酸が特に好ましい。

【0038】これらの収斂剤の本発明化粧料への配合量は、0.01～20%が好ましく、0.1～10%が特に好ましい。

【0039】しわ形成予防・改善剤としては、エストラジオール及びそのエステル、エストロン、エチニルエストラジオール等の卵胞ホルモン；レチン酸及びその誘導体（特開平6-249585号公報等）、アスコルビン酸誘導体（特開昭61-30510号、61-152613号公報等）、ビタミンE（特開昭62-1951号、62-87506号公報等）、γ-アミノ酪酸誘導体（特開昭62-255405号、特開平2-62810号公報等）などが挙げられる。これらは1種を単独で又は2種以上を組合せて用いることができる。本発明においては、これらのうちエストラジオール及びそのエステル、エストロン、エチニルエストラジオールが特に好ましい。

【0040】これらのしわ形成予防・改善剤の本発明化粧料への配合量は0.0001～10%が好ましく、0.1～2%が特に好ましい。

【0041】冷感剤と温感剤は単独で配合してもよく、これらを組合せて配合してもよい。冷感剤としては、1-メントール、カンファー、チモール等が挙げられる。

【0042】これらの冷感剤の本発明化粧料への配合量は0.01～20%が好ましく、0.1～10%が特に好ましい。

【0043】また温感剤としては、トウガラシチンキ、トウガラシエキス、トウガラシ末、ノナン酸バニリルアミド、ニコチン酸ベンジル、ニコチン酸メチル、ニコチン酸フェニル、ニコチン酸トコフェロールなどのニコチン酸誘導体、カプサイシン、オランダガラシエキス、サンショウエキス、ショウキョウエキス、カンタリエキス等が挙げられる。

【0044】これらの温感剤の本発明化粧料への配合量は0.0001～20%が好ましく、0.0005～5%が更に好ましい。

【0045】本発明の化粧料組成物に洗浄剤として界面活性剤を配合すると、シャンプー剤、洗顔剤等として好適な化粧料組成物を得ることができる。界面活性剤としては、アルキルベンゼンスルホン酸塩、アルキルエーテル硫酸塩、オレフィンスルホン酸塩、高級脂肪酸塩、 α -スルホ脂肪酸エステル塩、アミノ酸系界面活性剤、リン酸エステル系界面活性剤、スルホコハク酸エステル系界面活性剤等のアニオン性界面活性剤；スルホベタイン型界面活性剤、カルボベタイン型界面活性剤、アルキルアミノオキシド、イミダゾリン型界面活性剤等の両性界面活性剤；ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、アルカノールアミド及びそのアルキレンオキシド付加物、多価アルコールと脂肪酸とのエステル類、ソルビタン脂肪酸エステル類、アルキルサッカライド系界面活性剤などの非イオン性界面活性剤；モノ又はジ直鎖長鎖アルキル第4級アンモニウム塩、モノ又はジ分岐型直鎖長鎖アルキル第4級アンモニウム塩などのカチオン性界面活性剤を挙げることができる。これらは1種又は2種以上を適宜選択して用いることができる。これらのなかでも化粧料がシャンプーの場合には、皮膚や毛髪に対する刺激性を考慮して、アミノ酸系界面活性剤、リン酸エステル系界面活性剤、スルホコハク酸エステル系界面活性剤、イミダゾリン型界面活性剤、アルキルサッカライド系界面活性剤を組合せて用いることが好ましい。

【0046】これらの界面活性剤の本発明化粧料への配合量は0.1～40%が好ましく、1～20%が特に好ましい。

【0047】本発明のシート状化粧料組成物には、また、生薬、色素、香料、顔料、ビタミン類、酵素、ラノリン等の動物油脂類及びその誘導体、ホホバ油等の植物油脂類及びその誘導体、シリコーン類、各種無機塩類及び無機化合物、有機酸類等も配合することができるが、配合できる化粧品原料は下記に例示されるものに限定されるものではない。

【0048】(ア) 無機化合物及び無機塩類

塩化カリウム、塩化アンモニウム、硫化カリウム、硫化ナトリウム、酸化カルシウム、酸化マグネシウム、硝酸カリウム、硝酸ナトリウム、硝酸カルシウム、亜硫酸鉄、メタケイ酸、無水ケイ酸、中性白土、チオ硫酸ナトリウム、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム、リン酸ナトリウム、リン酸水素カルシウム、臭化カリウム、消石灰、次亜硫酸ナトリウム、チオ硫酸カルシウム、水酸化ナトリウム、雲母末、ホウ酸、ホウ砂、炭酸水素ナトリウム、セスキ炭酸ナトリウム、炭酸ナトリウム、炭酸マグネシウム、硫酸ナトリウム、硫酸マグネシウム等。

【0049】(イ) 有機酸、エステル類及びその塩類
アジピン酸、安息香酸、リンゴ酸、酒石酸、マロン酸、クエン酸、乳酸、フマル酸、コハク酸等。

【0050】(ウ) 生薬、漢方薬、ハーブ類

ジャスミン、ショウキョウ、オウゴン、ブクリョウ、ドクカツ、マツブサ、ビャクシ、ジュウヤク、樟脳、サフラン、ウイキョウ、カン皮、カミツレ、モモの葉、メリッサ、マロニエ、アルニカ、セージ、ボタンビ、ハコベ草、仙鶴草、キササゲ、バセリ、甘茶、甘逐、連銭草、柿の葉、千金子、浮き草、延命草、タイム、カワラヨモギ、アロエ、オウゴン、オウバク、カンゾウ、キキョウ、キクカ、キョウニン、クマザサ、ゲンチアナ、コンフリー、サンザシ、クチナシ、ドクダミ、シラカバ、セイヨウノコギリソウ、クワ、トウキンセンカ、トウニン、ノバラ、ビワ、ベニバナ、マロニエ、ムクロジ、ヤグルマギク、ユリ、ヨクイニン、レイシ、レンギョウ等。

【0051】(エ) 精油、香料類

ハッカ油、ジャスミン油、樟脳油、ヒノキ油、トウヒ油、リュウ油、ミカン油、オレンジ油、ユズ油、ショウブ油、ラベンダー油、ベイ油、クローブ油、ヒバ油、バラ油、ユーカリ油、レモン油、タイム油、ペパーミント油、セージ油、ベルガモット油、菖蒲油、バイン油、シネオール、オイゲノール、シトラール、シトロネロール、シトロネラール、ボルネオール、リナロール、ゲラニオール、フェニルエチルアルコール、ベンジルアセテート、スピラントール、ビネン、テルペン系化合物等

【0052】(オ) 油脂類

ヌカ油、米ヌカエキス、オリーブ油、大豆油、ホホバ油、アボガド油、アーモンド油、ゴマ油、パーシク油、ヤシ油、ヒマワリ油、ヒマシ油、カカオ油、ミンク油、牛脂、豚脂、魚脂、月見草油、ローズヒップ油等の天然油脂及びこれらを水素添加して得られる硬化油やグリセライド誘導体。カルナバロウ、ミツロウ、ラノリン等のワックス類。流動パラフィン、パラフィン、ワセリン、パラフィンマイクロクリスタリンワックス、セレシン、プリスタン、スクワラン等の炭化水素類。ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘニン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、ラノリン酸、イソステアリン酸等の高級脂肪酸。ラウリルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、オレイルアルコール、ラノリンアルコール、コレステロール、2-エキシルデカノール等の高級アルコール及びそのエステル誘導体。オクタン酸セチル、オクタン酸トリグリセライド、乳酸ミリスチル、乳酸セチル、ミリスチン酸イソプロピル、ミリスチン酸ミリスチル、ミリスチン酸オクチルドデシル、パルミチン酸イソプロピル、アジピン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、オレイン酸デシル、イソステアリン酸コレステロール、POEソルビット脂肪酸エステル等のエステル類。

【0053】(カ) シリコン類

ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、アミノ変性シリコン、アルコール変性シリコン、脂肪族アルコール変性シリコン、ポリエーテル変性シリコン、エポキシ変性シリコン、フッ素変性シリコン、環状シリコン、アルキル変性シリコン等。

【0054】(キ) 色素類

青色1号、青色2号、黄色4号、黄色5号、緑色3号、緑色4号、緑色204号、黄色202号の(1)等の厚生省令により定められたタール色素別表I及びIIの色素、クロロフィル、リボフラビン、クロシン、アントラキノン、コチニール、カンタキサンチン、紅花等の植品添加物として認められている天然色素等。

【0055】(ク) ビタミン類

ビタミンA、ビタミンB、ビタミンC、ビタミンD、ビタミンE等

【0056】(ケ) 微粉体

一般に化粧用粉体と称されるもので、アクリル樹脂、スチレン樹脂、エポキシ樹脂、シリコン樹脂、ナイロン、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル、PET、ポリテトラフルオロエタン等の高分子、この高分子化合物のコポリマー、ケイ酸カルシウム、天然ケイ酸アルミニウム、合成ケイ酸アルミニウム、ゼオライト、酸化チタン、タルク、カオリン、マイカ、ベントナイト、セリサイト、シリカ、パーミキュライト、雲母、雲母チタン、酸化マグネシウム、酸化ジルコニウム、硫酸バリウム、群青等。

【0057】(コ) その他

湯の花、イオウ、カゼイン、サリチル酸ナトリウム、入り糠、デキストリン、脱脂粉乳、尿素、アミノ酸類等を配合することができる。

【0058】更に、本発明の化粧料組成物は、上記したもの以外にも、必要に応じて殺菌防腐剤(例えばメチルパラベン、エチルパラベン、プロピルパラベン、ブチルパラベン、安息香酸エステル、ソルビン酸、トリクロサン、トリクロロカルバン等)、金属封鎖剤(例えばEDTA、NTA等)、蛋白分解酵素、抗ふけ剤(ジnkピリチオン、オクトロピックス等)、浸透促進剤(ベンジルアルコール、ベンジルオキシエタノール等)、増粘剤(カルボキシビニルポリマー、カルボキシメチルセルロース、ポリビニルアルコール、カラギーナン、ゼラチン等の水溶性高分子など)、電解質、pH調整剤(乳酸-乳酸ナトリウム、クエン酸-クエン酸ナトリウム等の緩衝剤など)などを配合できる。

【0059】本発明のシート状化粧料組成物を調製するには、水溶性不織布の製造工程中に薬効剤を配合することもできるが、不織布を製造した後に薬効成分を塗布又は蒸着することによって製することができる。これらの薬効成分を塗布又は蒸着する場合に薬効成分は揮発性の

溶剤に溶かして塗布又は蒸着することが好ましい。揮発性の溶剤としては、皮膚に対する安全性上、好ましいものが選ばれるが、特にエタノールが好ましい。また、揮発性の溶剤中には水分をなるべく含まないことが、水溶性の不織布の安定性を高める上で好ましいが、許容される水分量としては30%以下が好ましく、更には10%以下が好ましい。

【0060】本発明のシート状化粧料組成物は、気密性の包装材料に包装して保存するのが、湿度による品質低下を防止するうえで好ましい。水蒸気の透過性バリアーの程度としては、40℃、80%RH保存条件下での包装品の重量変化がほとんど生じないものが好ましく、同条件下での6ヶ月保存後の変化としては、重量が製品の包装単位で±5%以内であることが本発明のシート状化粧料組成物の包装材料として好ましい。気密性の包装材料の材質としては、セロファン、防湿セロファン、ポリプロピレン、ナイロン、ポリエステル、塩化ビニリデン、塩化ビニル、ポリカーボネイト、低密度ポリエチレン、高密度ポリエチレン、リニア低密度ポリエチレン、アイオノマー、ポリビニルアルコール、エチレン・酢酸ビニル共重合体、エチレン・アクリル酸共重合体、エチレン・エチルアクリレート共重合体、ポリメチルペンテン、ポリスチレン、アルミ箔などが好ましい例として挙げられる。このうち、特にポリプロピレン、塩化ビニリデン、低密度ポリエチレン、高密度ポリエチレン、リニア低密度ポリエチレン、アルミ箔をラミネートしたフィルムは、水蒸気の透過性バリアーが高く、気密性の包装材料の構成フィルムとして好ましい。

【0061】

【発明の効果】本発明によれば、予め濡らした皮膚の水分量の範囲も大きくとることができ、少ない水分量でも、たっぷり濡らした皮膚でも貼りつくという大きな利点を有し、皮膚に貼付した後、水で洗い流すことも、剥がすこともでき、取り扱い時に手指に付着することがなく、使用性に優れたシート状化粧料組成物を得ることができる。また、本発明のシート状化粧料組成物は、薬効成分を配合することにより、局所の保湿効果や循環改善効果や美白効果や肌の引き締め効果、痩身効果などを高めることが可能となった。従来のバック剤と異なり、本発明のシート状化粧料組成物は、そのもの全てが水に溶けるため、使用後に基剤を剥がす手間が省け、使用感に優れたものである。

【0062】

【実施例】次に実施例を挙げて本発明を説明するが、本発明はこれらの実施例に限定されるものではない。

【0063】実施例1

ポリビニルアルコール(重合度1700)繊維からなる水溶性不織布を10×7cmに裁断した後、アルミ箔をラミネートしたポリエチレンフィルムからなる包装材料に装填し、製造した。

不織布のデータ

繊維の太さ: $15\ \mu\text{m}$ 繊維の溶解温度: 5°C 不織布の厚さ: $280\ \mu\text{m}$ 不織布の目付: $50\ \text{g}/\text{m}^2$

【0064】実施例2

マレイン酸変性ポリビニルアルコール（重合度1400）繊維からなる水溶性不織布を $10 \times 7\ \text{cm}$ に裁断した後、アルミ箔をラミネートしたポリエチレンフィルムからなる包装材料に装填し、製造した。

不織布のデータ

繊維の太さ: $15\ \mu\text{m}$ 繊維の溶解温度: 1°C 不織布の厚さ: $280\ \mu\text{m}$ 不織布の目付: $50\ \text{g}/\text{m}^2$

【0065】比較例1

ポリビニルアルコール（重合度1500）からなる水溶性フィルムを $10 \times 7\ \text{cm}$ に裁断した後、アルミ箔をラミネートしたポリエチレンフィルムからなる包装材料に装填し、製造した。

フィルムのデータ

* 繊維の溶解温度: 5°C フィルムの厚さ: $300\ \mu\text{m}$

【0066】比較例2

マレイン酸変性ポリビニルアルコール（重合度1400）水溶性フィルムを $10 \times 7\ \text{cm}$ に裁断した後、アルミ箔をラミネートしたポリエチレンフィルムからなる包装材料に装填し、製造した。

フィルムのデータ

繊維の溶解温度: 1°C 10 フィルムの厚さ: $280\ \mu\text{m}$

【0067】試験例: 実施例1、2に従って調製された本発明のシート状化粧料組成物及び比較例1、2に従って調製されたシート状化粧料組成物について、被験者3名を用いて、石鹼で洗浄後の肌（顔）に貼って使用試験を行い使用感の評価した官能試験結果を表に示した。

【0068】（使用方法）石鹼で洗顔後、濡れたままの肌にシート状化粧料組成物を貼付し、5分後に剥離又は洗浄した。貼付時及び、剥離又は洗浄時の使用感を調査した。

20 【0069】

*

バネラーA

実施例1	貼付するときの感触 剥離するときの感触
実施例2	貼付するときの感触 剥離するときの感触
比較例1	貼付するときの感触 剥離するときの感触
比較例2	貼付するときの感触 剥離するときの感触

きれいに貼りつき違和感がない
きれいに剥がせて気持ちがいい
きれいに貼りつき違和感がない
きれいに剥がせて気持ちがいい
ぬるぬる貼りつき違和感がある
乾ききらずねばねばして気持ち悪い
ぬるぬる貼りつき違和感がある
乾ききらずねばねばして気持ち悪い

【0070】

バネラーB

実施例1	貼付するときの感触 洗浄するときの感触
実施例2	貼付するときの感触 洗浄するときの感触
比較例1	貼付するときの感触 洗浄するときの感触
比較例2	貼付するときの感触 洗浄するときの感触

きれいに貼りつき違和感がない
きれいに洗えて気持ちがいい
きれいに貼りつき違和感がない
きれいに洗えて気持ちがいい
ぬるぬる貼りつき、違和感がある
フィルムが皮膚の上で動ききれいに洗えない
ぬるぬる貼りつき、違和感がある
フィルムが皮膚の上で動ききれいに洗えない

【0071】

バネラーC

実施例1	貼付するときの感触 剥離するときの感触
実施例2	貼付するときの感触 剥離するときの感触

びたっと貼りつき違和感がない
古い角質層がきれいにとれて気持ちがいい
びたっと貼りつき違和感がない
古い角質層がきれいにとれて気持ちがいい

13	
比較例1	貼付するときの感触 剥離するときの感触
比較例2	貼付するときの感触 剥離するときの感触

14	
	ぬるぬる貼りつき、違和感がある フィルムが乾かざきれいに剥離しない
	ぬるぬる貼りつき、違和感がある フィルムが乾かざきれいに剥離しない

【0072】上記試験結果からも明らかなように、本発明のシート状化粧料組成物は肌に対して良好な接着性が高く、肌に貼ったあと剥がしやすく、かつ洗い落としやすくまた、貼付時もべたべたせず使用感の良好な製剤であることが分かった。これに対して比較例1、2は貼るときにはぬるぬるし、安定感がなく、また剥離時にもねばねばしたり、洗浄時に溶け残りが生じ使い勝手の悪いものであった。

【0073】実施例3

美白剤成分であるカミツレエキス（アルコール抽出エキス、固形分3%、95%エチルアルコール溶媒）をポリビニルアルコール（重合度1700）繊維からなる水溶性不織布上に20g/m²を噴霧し、50℃/30%RHの環境で揮発分をほぼ100%乾燥させた後、10×7cmに裁断した後、アルミ箔をラミネートしたポリエチレンフィルムからなる包装材料に装填し、製造した。

不織布のデータ

繊維の太さ：15μm

繊維の溶解温度：5℃

不織布の厚さ：280μm

不織布の目付：50g/m²

【0074】実施例4

美白剤成分であるコウジ酸（0.1%、95%エチルアルコール溶媒）をポリビニルアルコール（重合度1700）繊維からなる水溶性不織布上に20g/m²を噴霧し、50℃/30%RHの環境で揮発分をほぼ100%乾燥させた後、10×7cmに裁断した後、アルミ箔をラミネートしたポリエチレンフィルムからなる包装材料に装填し、製造した。

不織布のデータ

繊維の太さ：15μm

繊維の溶解温度：5℃

不織布の厚さ：280μm

不織布の目付：50g/m²

【0075】実施例5

瘦身成分であるアレチアザミ（アルコール抽出エキス、固形分8%、95%エチルアルコール溶媒）をマレイン酸変性ポリビニルアルコール（重合度1400）繊維からなる水溶性不織布を10×7cmに裁断した後、アルミ箔をラミネートしたポリエチレンフィルムからなる包装材料に装填し、製造した。

不織布のデータ

繊維の太さ：15μm

繊維の溶解温度：1℃

不織布の厚さ：280μm
不織布の目付：50g/m²
【0076】実施例6
10 血行促進成分である3-オクチルフタリド（0.1%、95%エチルアルコール溶媒）をポリビニルアルコール（重合度1700）繊維からなる水溶性不織布上に20g/m²を噴霧し、50℃/30%RHの環境で揮発分をほぼ100%乾燥させた後、10×7cmに裁断した後、アルミ箔をラミネートしたポリエチレンフィルムからなる包装材料に装填し、製造した。

不織布のデータ

繊維の太さ：15μm

繊維の溶解温度：5℃

20 不織布の厚さ：280μm

不織布の目付：50g/m²

【0077】実施例7

皮膚収斂成分である焼きミョウバン（平均粒径60μm）をポリビニルアルコール（重合度1700）繊維からなる水溶性不織布上に20g/m²を分散させ良く擦りこんだ後、5kq/cm²の圧力で押付け、更に95%エチルアルコールを10g/m²の量を吹き付け、50℃/30%RHの環境で揮発分をほぼ100%乾燥させ、不織布の繊維中にミョウバン粉を固定した。10×7cmに裁断した後、アルミ箔をラミネートしたポリエチレンフィルムから包装材料に装填し、製造した。

不織布のデータ

繊維の太さ：15μm

繊維の溶解温度：5℃

不織布の厚さ：280μm

不織布の目付：50g/m²

【0078】実施例8

界面活性剤であるラウリル硫酸ナトリウム粉末をポリビニルアルコール（重合度1700）繊維からなる水溶性不織布上に20g/m²を分散させ良く擦りこんだ後、5kq/cm²の圧力で押付け、更に95%エチルアルコールを10g/m²の量を吹き付け、50℃/30%RHの環境で揮発分をほぼ100%乾燥させ、不織布の繊維中にミョウバン粉を固定した。10×7cmに裁断した後、アルミ箔をラミネートしたポリエチレンフィルムからなる包装材料に装填し、製造した。

不織布のデータ

繊維の太さ：15μm

繊維の溶解温度：5℃

50 不織布の厚さ：280μm

不織布の目付：50 g/m²